

一須賀K9号墳・K10号墳・K13号墳の測量調査

犬木 努・長友朋子・近藤麻美・呉 迪

1. はじめに

一須賀古墳群は、大阪府南河内郡河南町および太子町に所在する群集墳である。いわゆる磯長谷の南に位置する丘陵上に立地し、東西約1km、南北約1.2kmの範囲に約260基の円墳が分布する。支群の理解については諸説あるが、近年では、A～U・W・WA群という23の支群に分けられている（大阪府立近つ飛鳥博物館2008など）。築造時期は、6世紀前葉から7世紀前葉に及ぶ。

この地に所在する古墳については、江戸時代の河内名所図会などにも記述が見られるが、考古学的な調査が行われたのは、上野勝己による分布調査を嚆矢とする（上野1966）。1968年から1969年には、住宅開発の事前調査としてWA支群30基の発掘調査が実施されている。その後、1971年に大阪府教育委員会による分布調査が行われる一方、1972年から1974年には史跡整備および公開を目的として31基の古墳の発掘調査が実施されている。

1986年には大阪府立近つ飛鳥風土記の丘公園がオープンし、1994年には一須賀古墳群が国史跡に指定されるとともに、大阪府立近つ飛鳥博物館が開館し、現在に至る。

一須賀古墳群については、発掘調査の成果が未刊のものも多く、その全体像については不明な点も多いが、近年、一須賀古墳群に関わる基礎情報がまとめられているほか（宮崎2006）、いくつかの古墳について新たに測量調査が実施されている（大阪大学考古学研究会2010・2011a）。

大阪大谷大学文化財学科では、昨年度から一須賀古墳群K支群の測量調査を開始し、昨年8月から9月にかけて、K11号墳およびK12号墳の測量調査を実施した（犬木ほか2013）¹⁾。

今年度は、昨年度に引き続き、隣接するK9号墳・K10号墳・K13号墳の測量調査を実施した。本稿ではその調査成果の概略について報告

する。

なお、今回、測量調査を行った一須賀K9号墳・K10号墳・K13号墳は、1971年、大阪府教育委員会による分布調査で初めて確認された古墳である（大阪府教委1971）。これらの3古墳は、1974年に大阪府教育委員会によって横穴式石室の発掘調査が実施されている（大阪府教委1975）。

1974年には大阪府教育委員会による発掘調査が実施され、K9号墳の横穴式石室では須恵器・土師器・金環・刀子・鉄釘、K10号墳の横穴式石室では、須恵器・土師器・金環・鉄釘・鏃、K13号墳の横穴式石室では刀子および鉄釘が出土している（大阪府教委1975）。

大阪大谷大学文化財学科では、今回測量調査を実施したK支群を手始めに、一須賀古墳群の測量調査や出土品の再検討作業を継続的に実施したいと考えている²⁾。

2. 測量調査の経過

今回の測量調査は、大阪大谷大学文化財学科を調査主体、同学科の犬木・長友両名を調査担当者として、8月26日（月）から9月9日（月）にかけて実施した。予備日を除いた実質的な調査日数は11日間である。機材搬入や測量基準杭設置、トラバース設定など、測量調査の準備に3日間、実際の測量作業には8日間を要した。

調査の経過は下記の通りである。

8月26日（月）機材搬入

8月27日（火）草刈り、測量基準杭設置、トラバース設定

8月28日（水）草刈り、測量基準杭設置、トラバース設定

8月29日（木）予備日（作業なし）

8月30日（金）測量調査

8月31日（土）測量調査

9月1日（日）測量調査

9月2日（月）予備日

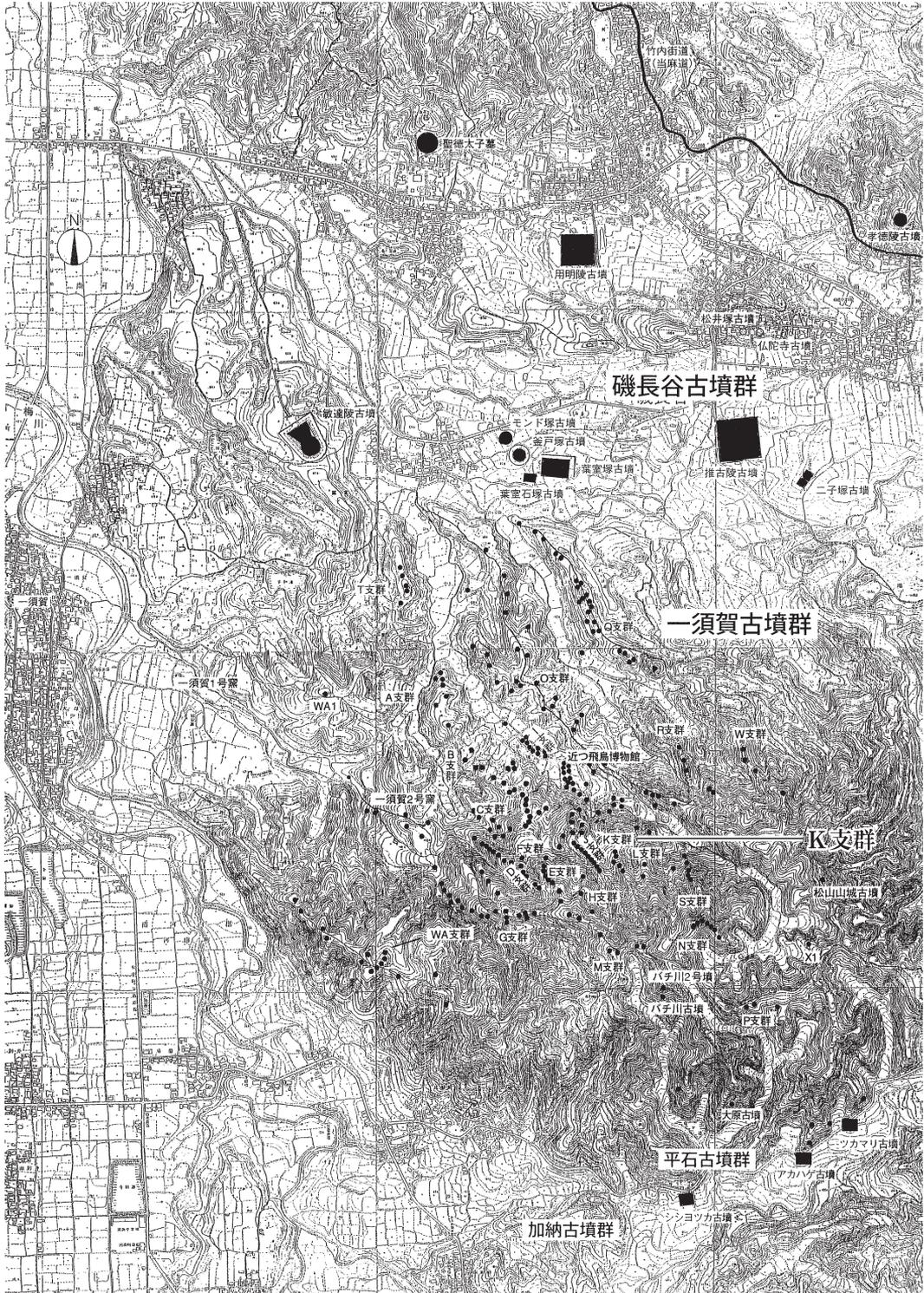


図1 一須賀古墳群と周辺の古墳群 (大阪府立近つ飛鳥博物館2008より、一部改変)

(作業なし)

9月3日(火) 測量調査

9月4日(水) 測量調査

9月5日(木) 測量調査

9月6日(金) 予備日

(作業なし)

9月7日(土) 測量調査

9月8日(日) 雨天のため
作業中止

9月9日(月) 測量調査、
機材撤収

文化財学科の教員も含めた調査参加者は下記の通りである。

犬木 努・長友朋子(本学教員)

近藤麻美(本学大学院研修生)

呉 迪、村田一馬(本学大学院修士課程)

井堀直向・岡井拓磨(本学文化財学科4回生)

坂野圭吾・福田風露(同3回生)

石山貴大・柏山裕輝・坂友希衣・橋本美希・

松本彩奈・宮田絵里香・吉田昌史(同2回生)

宇野 梓・高田 怜・濱内優佳(同1回生)。

なお、2回生の7名は、文化財学科の専門選択科目「考古学実習A・B」の一環として、測量調査に参加している。

3. 測量調査の方法

昨年度の測量調査に際して、近つ飛鳥風土記の丘公園の入り口付近に設置されている「街区三角点No.1008A」(標高28.872m)よりレベル移動を行った上で、K支群内にベンチ・マークを設置しており、今年度の測量調査でも、これを用いている。昨年度、K11号墳の横穴式石室の南側に設置した測量基準杭P0の標高は163.295mである。

今回、K10号墳の北側に、測量基準杭P20を設置し³⁾、同杭からK9号墳・K10号墳・K13号墳をカバーするようにトラバースを設定した。閉塞トラバースを基本とするが、一部開放トラバースを併用している。

測量には平板を使用し、縮尺20分の1、等高線間隔25cmで、墳丘および周辺地形の測量図

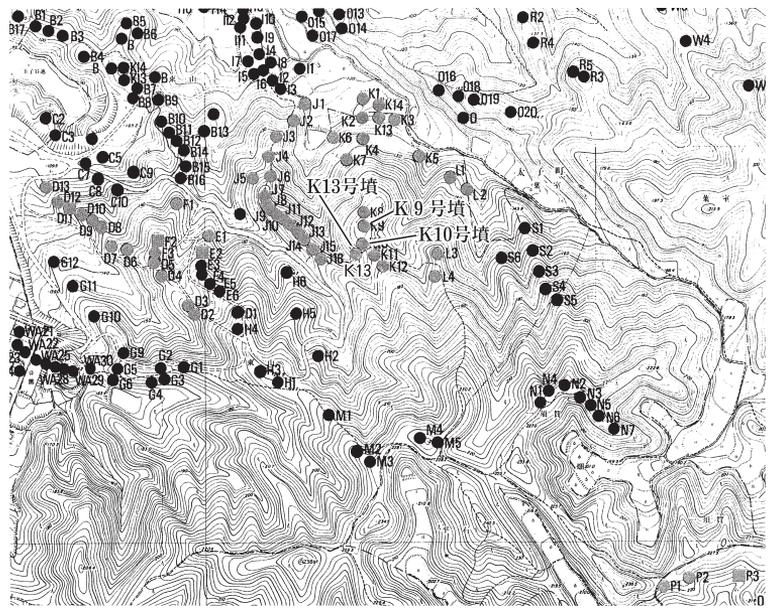


図2 一須賀古墳群K支群とその周辺(大阪府立近つ飛鳥博物館2005より、一部改変)

を作成した。昨年度の調査範囲に隣接しているので、昨年度の墳丘測量図との不整合・不連続等が生じないように留意した。

4. 測量調査の成果

(1) 一須賀K 9号墳

本古墳は、K11号墳およびK12号墳が立地する尾根を北に向かってわずかに下ったところに位置している。本古墳が立地する尾根は、K11号墳・K12号墳が立地する箇所と比べると、わずかに東に角度を変え、北北東に向かって延びている。本古墳は、尾根の背よりやや東側に位置し、東側の急斜面にかかるような位置に構築されている。

本古墳の南西にはK10号墳が隣接する。北東にはK8号墳が所在したが(大阪府教委1971)、現状では確認できない。

埋葬施設は、ほぼ南に向かって右片袖式の横穴式石室が開く。玄室の奥壁東側の石材が抜き取られているほか、羨道の天井石や側壁の石材も遺存しない。

墳丘は、横穴式石室の天井石のレベルまで削平され、天井石の全体が露出する。墳丘北側は比較的良好に遺存しており、墳端は標高167.0m付近と推定される。墳丘西側は緩斜面につながっており、墳端の確認はやや困難であるが、

現状では167.25m付近が墳端と推定される。墳丘東側は大きく削平され、墳端は遺存しない。墳丘南側には、羨道入口付近から墳丘外東側斜面に向けて、反時計回りに弧を描くように掘り凹められた跡が残る。石材採取時の掘削痕跡であろうが、本来、横穴式石室の前面が墓道状に掘り込まれていた可能性もある。

横穴式石室の奥壁を墳丘の中心と仮定し、墳丘南側の遺存状況に基づけば、墳丘の半径は8m程度と推定される。墳端の位置は不明瞭であるが、本来の墳丘は東西12m、南北15m程度であった可能性が高い。現状での墳丘の高さは約2.5m程度である。

南西に隣接するK10号墳との間には小径が認められるが、本来、その位置には、両古墳を画する緩やかな鞍部が存在したものと思われる。

(2) 一須賀K10号墳

本古墳は、K11号墳・K12号墳付近から北北西に向かって伸びてきた尾根が、北北東に向けてわずかに方向を変える箇所に立地する。K9号墳とは対照的に、尾根の西側斜面にかかるような位置に構築されている。

本古墳の北東にはK9号墳、南にはK13号墳、南南東には少し離れてK11号墳が立地する。

埋葬施設は、南南西に向かって右片袖式の横穴式石室が開口する。玄室の天井石のほか、奥壁・側壁の上半の石材が抜き取られている。羨道の天井石は遺存せず、側壁の石材も大半が抜き取られている。

墳丘は、横穴式石室の壁体中位のレベルまで削平されている。墳丘東側は墳端がわずかに遺存している可能性があり、標高167.0m付近が墳端と推定される。墳丘北側は標高167.75m付近が墳端と推定される。墳丘西側は、緩斜面につながっており、墳端は不明瞭である。墳丘南側は標高166.75m付近が墳端と思われる。

全体として墳端は不明瞭であるが、横穴式石室の奥壁を墳丘の中心と仮定すると、南側では墳丘の半径7m程度と推定される。本来の墳丘は南北約11m、東西約10mであった可能性が高い。現状での墳丘の高さは約1.5mである。

(3) 一須賀K13号墳

本古墳はK10号墳のすぐ南側に立地する。K10号墳・K11号墳から北北東に向かって伸びる尾根の西側斜面に構築されている。

本古墳の北にはK10号墳、南東にはK11号墳が位置している。

埋葬施設は、南南西に向かって無袖式の横穴石室が開口するが、現状では遺存石材の上端付近まで埋め戻されている。玄室・羨道とも天井石のほか、側壁石材の大半が抜き取られている。

墳丘はほとんど削平されてしまっていると思われる、明瞭な墳端は確認できない⁴⁾。斜面に立地していることや、すぐ北側にK10号墳が位置していることなどから、「山寄せ」式の比較的小規模な墳丘であったと推定される。

6. 結びに代えて

今回の測量調査の結果、一須賀K9号墳・K10号墳・K13号墳の墳形および墳丘規模について、新たな情報を得ることができた。

各古墳の横穴式石室については、1974年の発掘調査時に大阪府教育委員会によって作成された実測図を用いて、補測調査を実施している。また、発掘調査による出土品については、再実測あるいは新規の図化作業を実施中である。横穴式石室および出土品の実測図については、別途報告するものとする。

K支群については、現在、合計15基の古墳が確認されている(宮崎2006)。このうち、K8号墳・K9号墳・K10号墳・K11号墳・K12号墳・K13号墳の6基は、標高160mを超える尾根頂部の緩傾斜面に集中的に分布するのに対して、K1号墳・K2号墳・K3号墳・K4号墳・K5号墳・K6号墳・K7号墳・K14号墳・K15号墳の9基は、標高140m以下の丘陵斜面から丘陵裾部にかけて集中的に分布する⁵⁾。あくまでも立地や分布状況からの判断であるが、前者をK支群第1グループ、後者をK支群第2グループと仮称しておきたい。

K支群第1グループについては、昨年度はK11号墳・K12号墳の2基、今年度はK9号墳・K10号墳・K13号墳の3基の墳丘測量調査を実施することができた。K支群第1グループのうちK8号墳については、分布調査の時点で「墳

丘半壊」とされているが(大阪府教委1971)、現状では墳丘遺存を確認できないので、K支群第1グループについては、K 8号墳をのぞき、墳丘測量調査が完了したことになる。

来年度以降は、K支群よりさらに高位置にあるL支群などの墳丘測量調査を実施し、K支群との比較研究などを進めていく所存である。また、K支群周辺の踏査および分布調査や、K支群出土遺物の再実測作業も続行し、一須賀古墳群および各支群の「群構造」の解明につなげていきたいと考えている。

付記

墳丘測量図(図3)の原図補正は犬木、トレース原図の作成は近藤・呉、トレースは近藤が行った。版組は近藤の助力を得て、犬木が行った。原稿執筆は、長友・近藤・呉と合議の上、犬木が行った。写真撮影は調査参加者が行った。

謝辞

測量調査に際しては、下記の諸氏・諸機関のお世話になりました(いずれも五十音順)。心より感謝申し上げます。

赤井毅彦、井西貴子、鍛冶日義、小浜 成、西村 歩、森本 徹

大阪府教育委員会、大阪府立近つ飛鳥博物館、河南町教育委員会

註

- 1) 1974年の発掘調査時に作成された横穴式石室の実測図は、報告書未完のため、公表されていない。昨年度の墳丘測量調査に伴い、K11号墳の横穴式石室の補足測量も実施している。その成果については別途報告の予定である。
- 2) K支群の各古墳出土遺物は大阪府立近つ飛鳥博物館に所蔵されており、順次、図化作業を進めている。その成果については別途報告の予定である。
- 3) 今年度の測量基準杭Naについては、昨年度に設置した測量基準杭Naからの連番とした。
- 4) 大阪府教委の調査では、墳丘の直径7m、高さ1.5mとされている(大阪府立近つ飛鳥博物館2005)。
- 5) 一須賀K13号墳は、近つ飛鳥博物館の図録ではK14号墳のすぐ南に位置することになっているが(大阪府立近つ飛鳥博物館2005)、宮崎泰史による

再整理報告では、K14号墳の南に隣接する古墳はK15号墳とされ、K13号墳はK10号墳の南側に位置することになっており(宮崎2006)、本稿でもこれにしたがった。なお、今回の測量対象ではないが、K 6号墳の位置は、1971年作成の古墳分布図には記されているのに対して、上記文献掲載図面には、明記されていない(大阪府立近つ飛鳥博物館2005、宮崎2006)。

参考文献

- 犬木 努・長友朋子・近藤麻美2013「一須賀K11号墳・K12号墳の測量調査」『大阪大谷大学文化財研究』第13号、大阪大谷大学文化財学科、1～10頁
- 上野勝己1966「一須賀古墳群分布調査」『古代学研究』46号、古代学研究会、21～25頁
- 大阪大学考古学研究会2010「一須賀古墳群C-10号墳測量調査報告」『ましかね考古』第19号、1～25頁
- 大阪大学考古学研究会2011a「一須賀古墳群C-5・9号墳測量調査報告」『ましかね考古』第20号、1～23頁
- 大阪大学考古学研究会2011b「一須賀古墳群C支群分布調査報告」『ましかね考古』第20号、24～26頁
- 大阪府教育委員会1971『近飛鳥遺跡分布調査概要一 柏原市・羽曳野市・太子町・河南町一』大阪府文化財調査概要1970-4
- 大阪府教育委員会1975『一須賀古墳群発掘調査概要・II 一南河内郡河南町東山・奥山所在一』大阪府文化財調査概要1974-14
- 大阪府教育委員会1992a『一須賀古墳群資料目録I 土器編(写真図版)』
- 大阪府教育委員会1992b『一須賀古墳群資料目録I 土器編(実測図)』
- 大阪府立近つ飛鳥博物館2000『一須賀古墳群の調査』大阪府立近つ飛鳥博物館図録21
- 大阪府立近つ飛鳥博物館2000『一須賀古墳群の調査II』大阪府立近つ飛鳥博物館図録23
- 大阪府立近つ飛鳥博物館2002『一須賀古墳群の調査III』大阪府立近つ飛鳥博物館図録26
- 大阪府立近つ飛鳥博物館2004『一須賀古墳群の調査IV』大阪府立近つ飛鳥博物館図録33
- 大阪府立近つ飛鳥博物館2005『一須賀古墳群の調査V D・E・F・J・K・L・P支群』大阪府立近つ飛鳥博物館図録37

大阪府立近つ飛鳥博物館2008『よみがえる一須賀古墳群』

宮崎泰史2006「一須賀古墳群の調査VI一分布図・出土遺物の再整理作業から」『大阪府立近つ飛鳥博物館館報』10、大阪府立近つ飛鳥博物館、23～50頁

挿図出典

図1 大阪府立近つ飛鳥博物館2008より一部改変

図2 大阪府立近つ飛鳥博物館2005より一部改変

図3 今回の測量調査により作成（大阪大谷大学文化財学科原図）

写真1～8 犬木撮影



測量調査の様子



写真1 一須賀K 9号墳 全景 [南から]



写真2 一須賀K 9号墳 横穴式石室 [南から]



写真3 一須賀K9号墳 横穴式石室 [南東から]



写真4 一須賀K9号墳 横穴式石室 (玄室) [南東から]



写真5 一須賀K10号墳 全景 [南南東から]



写真6 一須賀K10号墳 横穴式石室 [南南東から]



写真7 一須賀K13号墳 横穴式石室 [南南西から]



写真8 一須賀K10号墳・K13号墳 遠景 (左側) [南南西から]

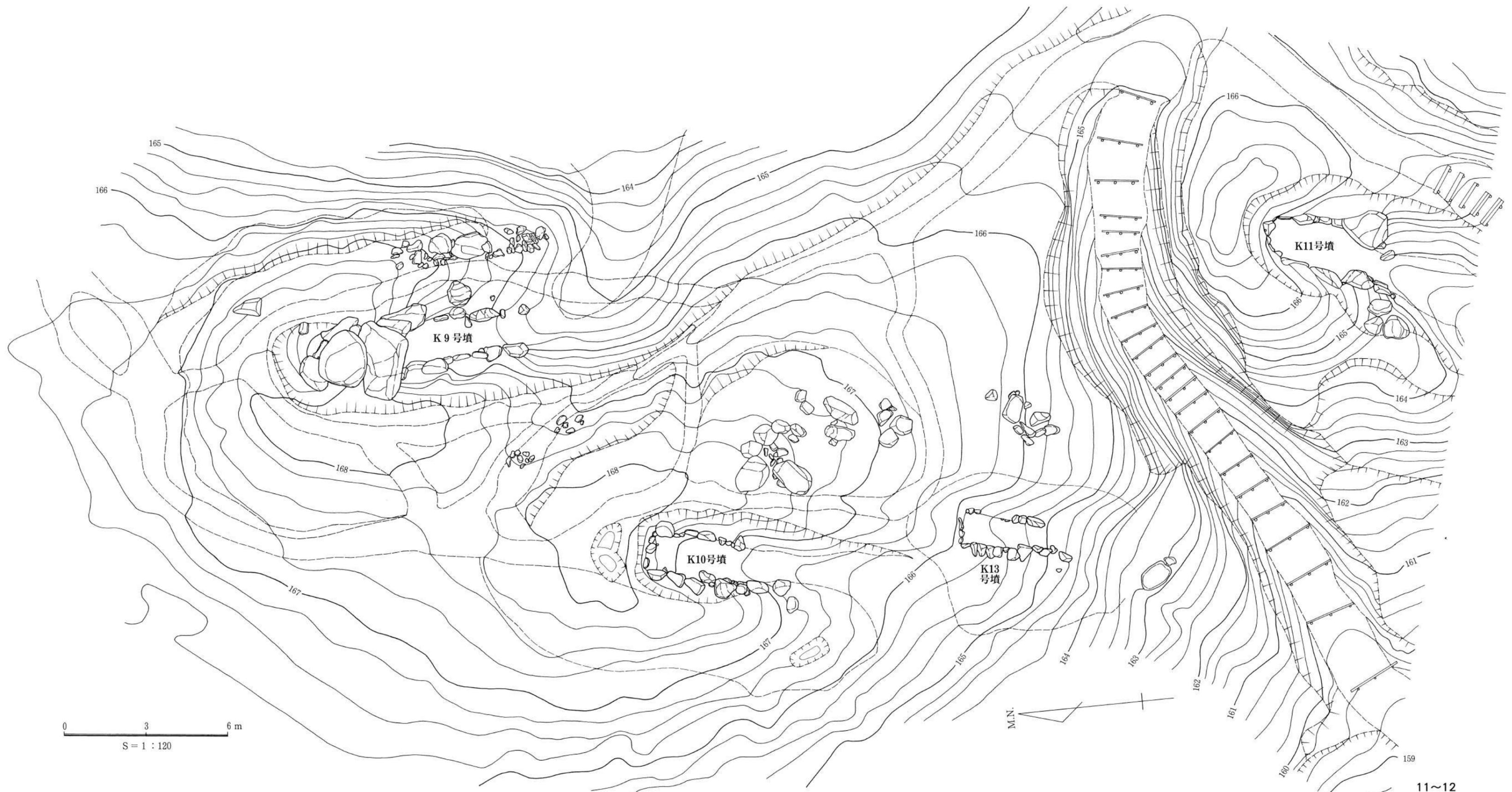


图3 一須賀古墳群K9号墳・K10号墳・K13号墳測量図 (S = 1 / 120)